

科研費
KAKENHI

この研究はJSPS科研費 (JP18H00154) の助成を受け、実施している。

助成額 530,000円

物品費 85% (iPad等)

旅費 12%
その他3%

後藤 匡敬 | Masataka Gotou
(熊本大学教育学部附属特別支援学校)



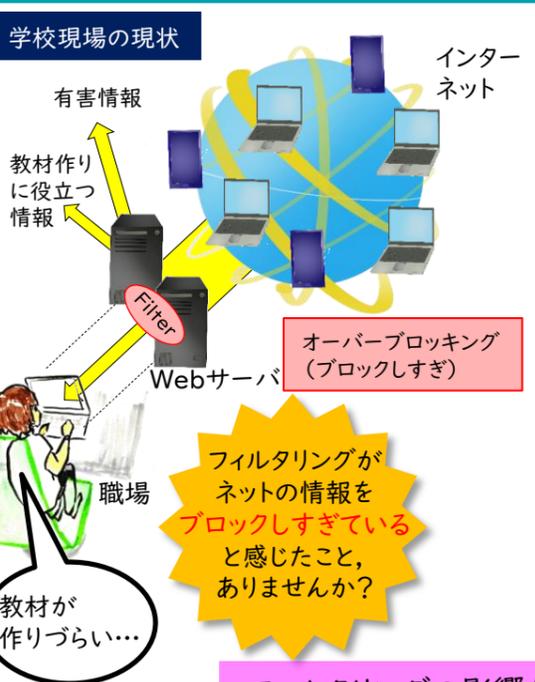
プレゼン教材データベース (デモサイト)
https://musashi.educ.kumamoto-u.ac.jp/

教材配信

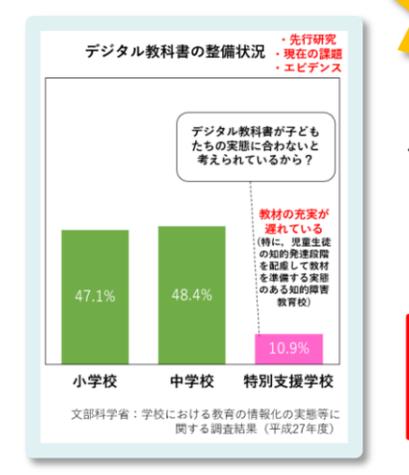
背景

99.2%の学校が情報フィルタリングを導入している (文部科学省調査: 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果 [確定値] H29年度)

情報フィルタリングはありがたいんだけど...
教材が作りづらい...



児童生徒で扱う教科書が一人一人異なることが多い特別支援学校では児童生徒に合わせて**教材を自作**することが多い



同じような教材を一つの学校でそれぞれの先生が作っていることも。教材の共有、できていますか？
もったいない
合理的でない

いい教材があるのに眠ったものがたくさん...
開発教材の特徴

開発教材は児童生徒に合わせてカスタマイズできるように、あえて**骨組み**状態に
短時間で使用することを想定



フィルタリングの影響なく、教材を提供できたらいいな
知的障害教育のデジタル教材をWeb公開したい

方法・実践

方法1 教材発掘

これまでに作ったデジタル教材をWeb公開するために、著作権問題を解消する

クリエイティブ・コモンズ
表示 非営利 継承
インターネット時代のための新しい著作権ルールで、作品を公開する作者が『この条件を守れば私の作品を自由に使って構いません。』という意思表示をするためのツール。
https://creativecommons.jp/

iPadで絵を手描きしよう

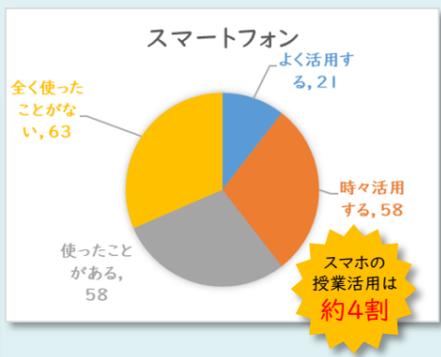
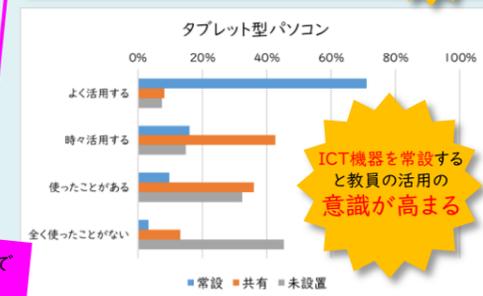
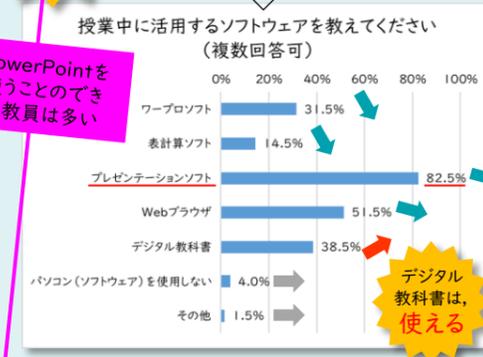
方法2 内容整理

知的の各教科の「指導内容確認表」を作成する
※資料あり(データは本校HP)
新学習指導要領解説(各教科等編)をもとに指導内容確認表を作成

見出しやカラーリングで 見やすくまとめ ファイリング

方法4 ICT活用の意識や実態を調査する

授業におけるICT活用に関するアンケート
期間: 2018年7月~10月
方法: Webアンケート(Google Form)
回答者: 200人の教師(全国13都道府県)



教材掘りおこしプロジェクト(掘りプロ) ※パネルあり



眠った教材を掘りおこす有志の勉強会。P研の機会を活用して実施。月1回のペースで、iPadでイラストを描く方法や、プレゼン教材のアイデア集め、指導内容確認表の作成などを行った。本校ホームページから、ダウンロード可能(年度内予定)。

掘りプロで作成したイラストの一部



主にiPadのアプリ(Procreate)を使用
効果音も自作



一番授業で使われているのはPowerPoint
PowerPointを使うことのできる教員は多い

全教科の指導内容を確認するための表を作成した。これに基づき、プレゼン教材を整理していく。また、この表は、教育課程の検討やアセスメントにも活用できた。(中学部数学ポスター参照)

校内外みんなでプレゼン教材作成

イラストレーター(イラスト描き) プレイヤー(授業実践)
デザイナー(絵コンテ) クリエイター(プレゼン作り)
次年度、実現したいな...

方法3 新たなデジタル教材を作成し実践、検証する

教材開発 教材例(熊本大学教育学部技術科・塚本研究室参加)

WindowsPCのPowerPointで作成

PowerPointで教材を作ると使われやすくてローコスト

小学部算数、中学部理科、小学部国語等を作成した。授業実践と検証を重ね、改善に取り組んでいる。

プレゼン教材の工夫(例)
・誤操作防止(左に矢印)・ヒントキー

自由記述回答より 回答をくださった皆様の声の一部

機械もの、私は得意ではないですけど、子どもたちは、得意な子もたくさんいる...
学校のパソコンはフィルターがかかっているのでもって自由に調べられず不便。私物のスマホを使っています。
現在の勤務校は、授業のために職員室からパソコンを持っていかねばならず、とても不便になりました。
所属校は機器が充実している。あとは教師側が活用する力をそれぞれ身につけなければと思う。
クラウドの使用が遮断されているため、活用すればするほど、教材などのストックがしづら、Wi-Fiの整備が足りない等の課題が出てきています。
教師の教室へのスマホの持込は原則禁止のため、授業で使用するにはその都度管理職に使用許可を得ている学校が多い。

方法5 システム開発

Web公開システムを開発する

Webサイト公開(塚本研究室)

CMS(NetCommons)がベース。デモサイト公開までできた。ポスター右上のQRコード参照。



今後の方向性

プレゼン教材の活用場を提案
①単元のまとめとして
②アセスメントとして
③教員研修資料として

プレゼン教材のデータベース化

指導内容確認表の高等部版の作成

プレゼン教材サイトの使い方のマニュアル化(説明動画作成)

